



# 自然に親しむ一週間

## 待望の修学旅行おこなわる

※修学旅行の思い出のアルバム(一頁)を贈る旅行は、遅いながらも八月三日から九月四日まで一週間にわたって行われた。目的地は昨年と同じ東北であったが今年は修学旅行の思い出をより豊かにするため、十和田湖から奥入瀬、高温泉、鹿角を経て青森に至るコースで二週間のうちに十和田湖をめぐり、同じく来たわけである。以下にその旅行の概略を記す。

「写真は男鹿の山並み」(若原彰)

# 男鹿・十和田をめぐる



## 眠れない汽車の旅

### 奥羽線を北上して秋田へ

八月三日の午後五時半、かなととしていた秋田は、いよいよ出発の日。奥羽線が動き出す。車窓から見える風景は、秋田の雄大な山並み、雄大な川、雄大な海。車窓から見える風景は、秋田の雄大な山並み、雄大な川、雄大な海。車窓から見える風景は、秋田の雄大な山並み、雄大な川、雄大な海。

## 屹立する奇岩怪石

### 男鹿の景勝を船から観賞

男鹿半島の北端に屹立する奇岩怪石は、自然の傑作である。船から眺めると、まるで仙人の居るかのような異様な光景が広がる。潮の満ち引きによって、岩の姿も変化する。秋の涼風が吹く中、静かに船を動かす。男鹿の景勝を船から観賞する。

## 秋田を見物して

### 秋田を見物して

秋田を見物して。秋田の歴史と文化を堪能しよう。秋田の歴史と文化を堪能しよう。秋田の歴史と文化を堪能しよう。秋田の歴史と文化を堪能しよう。

## 十和田湖は遊覧船で

### 湖岸の風景に讚嘆の声

九月二日、どんよりと曇る中、十和田湖を遊覧船で訪れた。湖岸の風景は、まるで絵画のようだ。遊覧船で湖をめぐると、自然の美しさに心を奪われる。湖岸の風景に讚嘆の声が上がる。

## 大盛況のエネ大会

### 萬温泉に余興は弾む

萬温泉に大盛況のエネ大会が開催された。多くの参加者が集まり、大いに盛り上がった。萬温泉の美しい風景と、大盛況の大会が一体となった。萬温泉に余興は弾む。

## バスガールの歌声に

### 十和田の幽境を訪れる

バスガールの歌声に、十和田の幽境を訪れる。バスガールの歌声が、静かな湖のほとりまで届く。十和田の幽境を訪れる。

八月三日の午後五時半、かなととしていた秋田は、いよいよ出発の日。奥羽線が動き出す。車窓から見える風景は、秋田の雄大な山並み、雄大な川、雄大な海。車窓から見える風景は、秋田の雄大な山並み、雄大な川、雄大な海。



【写真説明】十和田湖岸の雄大な山並み(若原彰)



【写真説明】男鹿半島の奇岩怪石(若原彰)

再び男鹿半島の北端に屹立する奇岩怪石は、自然の傑作である。船から眺めると、まるで仙人の居るかのような異様な光景が広がる。潮の満ち引きによって、岩の姿も変化する。秋の涼風が吹く中、静かに船を動かす。男鹿の景勝を船から観賞する。

九月二日、どんよりと曇る中、十和田湖を遊覧船で訪れた。湖岸の風景は、まるで絵画のようだ。遊覧船で湖をめぐると、自然の美しさに心を奪われる。湖岸の風景に讚嘆の声が上がる。

萬温泉に大盛況のエネ大会が開催された。多くの参加者が集まり、大いに盛り上がった。萬温泉の美しい風景と、大盛況の大会が一体となった。萬温泉に余興は弾む。

バスガールの歌声に、十和田の幽境を訪れる。バスガールの歌声が、静かな湖のほとりまで届く。十和田の幽境を訪れる。

再び男鹿半島の北端に屹立する奇岩怪石は、自然の傑作である。船から眺めると、まるで仙人の居るかのような異様な光景が広がる。潮の満ち引きによって、岩の姿も変化する。秋の涼風が吹く中、静かに船を動かす。男鹿の景勝を船から観賞する。



【写真】十和田湖の遊覧船(若原彰)

萬温泉に大盛況のエネ大会が開催された。多くの参加者が集まり、大いに盛り上がった。萬温泉の美しい風景と、大盛況の大会が一体となった。萬温泉に余興は弾む。

バスガールの歌声に、十和田の幽境を訪れる。バスガールの歌声が、静かな湖のほとりまで届く。十和田の幽境を訪れる。

再び男鹿半島の北端に屹立する奇岩怪石は、自然の傑作である。船から眺めると、まるで仙人の居るかのような異様な光景が広がる。潮の満ち引きによって、岩の姿も変化する。秋の涼風が吹く中、静かに船を動かす。男鹿の景勝を船から観賞する。

学芸



朝の眠り

沈黙した夜。
葉蔭に眠りかかっている。
夜の静けさの真珠。
やがて木立の間を渡る光。
まるで足音を流しているように。
そと。

蛾

K I C
蛾は光を求めて。
一匹の蛾を捉えて。
無心にはなを動かして。
蛾は灰色だ。
赤は赤だ。

都会の夜

K I C
都会の夜。
それは、星が一層輝き出してから。
黒い影の目には、ネオンの光が。
まぶしい。

沈みゆく太陽

K I B
太陽は。
今まさに海の中へ沈み行かんと。
暮れゆく夕もやに。
その中に太陽を。
自由を求めるように。
自由を求めるように。
自由を求めるように。

和歌

K I C
荒海。
一新たな年となりけり。
空留れて。
天に下りて潮の音。
二さんさく。
三角の打ち寄せて。
飛ぶるしほき。
天に舞上る。
三海海。
寄る波辺や眺むれば。
白雲は飛ぶ沖の鳥影。
四波波。
岩も入行と打ち寄ると。
その辺にも。
春は来にけり。

栄光生の詩作品から

栄光の文芸活動を語るには、本紙の一面を
開いてその活動を追って行くに以上上つてゐる
その間多量の作品が掲載されたが、新聞部では今
度一年に亘り、それ等作品の中から一つの傑作
を抽出して、中には相当詳細に批判もあるがよ
ういふ作品を生み出す原動力として利用される
のである。尚ほ自身の希望より更にこれ
アノ力大敵
るにまよつてゐるやないか、そ
ろろと自然の発展を待たないで、
なにかと云ふのを、これを再
しして、その中から一つを
手に取り、その上に展開し、
紳士がコロンブ
スの大冒険に
するのと同じか、と云ふは、彼は時
からこの時を、云ひつづけて、こま
まに立てて来た。すると人々は、
何故か、自然
たまたま知らなかつたものを、

くもの傘は本道に傾き、
もしも傘が外へ出て、
それはまぶしく死んでしま
う。
それは、星が一層輝き出して
から。
黒い影の目には、ネオンの光
が。
まぶしい。

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、
「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

「朝」
(第四七号)
朝が来た
すがすがしい気持ちになる
非汗は出て、

原稿募集
右記の要領で原稿を募集します
一、十月中旬
一、部員又は投稿箱まで
一、種目は何でも結構
小説、戯曲、シナリオ、短歌、俳句、
詩、作文、研究、評論、書評、随筆、
随想、その他

青雲堂
カメラと文具
船越 仲通
電話(田浦)五九二番
毎週水曜日、日曜日

特別原稿募集
一、私の愛読書
一生徒の良書案内
八〇〇字以内
学校内外を問わず
一〇〇〇字以内
以上いずれも十一月十五日まで
編集部員室投書箱へお入れ下さい
栄光編集部

クリスマス公演用戯曲を
募集します
一、創作、既成作品を問いません。
一、聖劇に限りません。
一、上演時間は一時間以内のものとし
ます。
一、切十月三十日
提出 本尾先生又は部員まで
演劇部

◎萬年筆修理始めました
◎書道教授(当店二階)
毎週水曜日、日曜日





